

シリーズ：サステイナブルキャンパスをめざす世界の大学

その3 地方都市再生に貢献するキャンパス計画-1

～ブラッドフォード大学のキャンパス計画と地域再生計画との連携～

小篠隆生（北海道大学准教授）

上野 武（千葉大学教授）

1. はじめに

平成 24 年 6 月 5 日文部科学省は、社会を変革するエンジンとしての大学の役割を広く理解・実感してもらうことを目的とした**大学改革実行プラン**（以下、プラン）を発表した。プランは、①激しく変化する社会における大学の機能の再構築、②大学の機能の再構築のための大学ガバナンスの充実・強化、という二つの柱からなっている。特に、一つ目の柱の中で、地域課題を解決していくためには、「**地域再生の核となる大学づくり：COC（Center of Community）構想の推進**」が、急務であるとしている。

少子高齢化、経済規模の縮小、地方都市の疲弊、グローバル化への対応、地域におけるケアサービスの拡大、といった私たちを取りまく社会の変化や課題は、特に地方都市において顕著である。大学がこれらの地域課題を直視し、解決に取り組むことによって、その教育研究機能の強化も図っていかうというものである。

プランでは、以下のような大学の役割が期待されている。

- ・ 地域（社会・産業・行政）と大学との組織的な連携強化
- ・ 大学の生涯学習機能の強化
- ・ 地域のイノベーション創出人材の育成
- ・ 地域の雇用創造、産業振興への貢献
- ・ 地域の課題解決への貢献
- ・ 多様な活動を支える教育・研究水準の保証

大学のキャンパスの計画にあたっては、これらを強く意識して考えていく必要があることは言うまでもない。

このような地方都市の再生は、我が国だけの問題ではなく、欧米諸国も同様の悩みを抱えており、その改革を大学に期待している事例も数多い。

シリーズ連載 3 回目と 4 回目は、地方都市再生に貢献するキャンパス計画というテーマで、産業構造や居住環境の変化に伴って、徐々に疲弊してしまった地方都市において、大学のキャンパス計画を都市再生の起爆剤として新たな展開を図っている都市と大学の海外事例を取り上げる。

今回は、英国イングランド中部にあるブラッドフォード市とブラッドフォード大学の事例を紹介する^{注1)}。

2. イングランド政府による北部地域の再生施策

イングランドのブラッドフォード市は、人口約 48 万人でイングランド 10 番目の都市である。イングランド北部の緩やかな丘陵地帯に位置し、周辺には、マンチェスター、リヴァプール、リーズ、シェフィールドといった 50～130 万人規模の大都市が 40～50km の距離に点在してい

る。しかし、それらの都市も同様であるのだが、産業革命以降の都市を支えた基幹産業が衰退することで、一様に都市の活力を失い、低所得者の増大、社会サービスの低下、さらなる人口流出などの社会問題に喘いでいるのである。ブラッドフォード市も主力であった毛織物産業が 1960 年代より衰退の一途をたどり、同様の社会問題や都心の空洞化を抱えるようになった。

イングランド政府としては、このように衰退したイングランド北部地域の再生を図るために、サステイナブル・ディベロップメント、都市居住、経済的発展、空間の質的向上、都心の再生という 5 つのテーマを掲げた政策を打ち出した。サステイナブル・ディベロップメントでは、社会面、経済面、環境面における持続可能性を高める開発のモデルをつくり、CO2 の削減だけではなく、多様なコミュニティのバランスをつくりあげていくことを目指す。都市居住では、既成市街地の中に必要な住宅の 60 % を建設、立地させ、特に中心市街地やその近隣に公共交通でのアクセスがよい住宅を建設する。経済的発展では、衰退した基幹産業に代わるクラスター型産業や知的産業を誘導することによって新たな経済成長を狙うものである。その際に、北部地域の中でも規模の比較的大きな都市やそこに立地する大学は、経済成長の主要な牽引役になることが位置づけられている。空間の質的向上では、建築や公共空間の質的向上をはかり、都市全体としての統一的、連続的な構成を実現するアーバンデザインを行うことが都市環境の再生には必要不可欠であるとしている。5 番目の都心再生では、商業、文化・レクリエーション、居住機能を都心に誘導することで中心部の活性化を図るという戦略をたてたのである。

3. ブラッドフォード市の中心市街地再生計画

政府のこのような大きな方針に基づいてブラッドフォード市としては、具体的な計画づくりを行った。その原動力になったのは、**都市再生会社**^{注2)}である。都市再生会社は、自治体自らが、都市再生を実現していくための事業推進を図ることを目的に設立されたもので、国が出資する開発機関、地域開発公社、基礎自治体の協働でつくられた法人組織である。

ブラッドフォードの中心市街地再生計画は、ブラッドフォード都心再生会社（Bradford Center Regeneration＝以下 BCR）という都市再生会社が 2003 年に設立されスタートした。都市再生会社は、市、地域開発公社（Regional Development Agency：RDA）、イングリッ

シュ・パートナーシップ^{注3)}、という3つの支援母体との間にパートナーシップを形成して運営されており、各自治体の都市再生策を示す地域経済戦略計画を実現するための事業の組み立てと推進を役割としている。そのために、対象地域全体の都市再生のためのマスタープランを作成する。計画内容は、定住人口増、雇用創出、経済復興、生活・ビ

ジネス環境の向上、民間投資の誘引等を目標に、工場跡地再生、土地開発、住宅整備、文化・産業施設整備、交通環境改善、公共空間整備等に及ぶものである。

BCR 設立の目的は、ブラッドフォードの都心部の持続的な再生を促進することである。具体的には、①都心部を北部イングランドにおける中心的な都心に変える、②投資

家の信用を促す、③都心部の経済の多様化と発展、④ブラッドフォードの人々の雇用機会の創出、⑤交通、駐車場、道路ネットワークを改善、⑥安全で楽しい都心を創出する先行事例となることが挙げられている。そして、2003年には「ブラッドフォード都心再生マスタープラン」を策定し、都心部再生の全体像とイメージを明らかにしている。

BCR が策定した計画は、経済再生、教育研究の卓越、安全性の向上、健康的なアーバンライフ、居住環境の向上、文化の中心地、コミュニティ力の向上という7つの方針が掲げられた。

都心部の4つの地区に対して、それぞれの地区の性格づけを行って、具体的なプロジェクトとともに空間イメージを示した計画になっている。しかし、社会情勢の変化の中で、より具体的で実現可能な内容に進化させ、具体化を促進させることに迫られた。

そこで、都心部の計画対象地区に立地するブラッドフォード大学、ブラッドフォードカレッジ、専門学校などを都心部の再生に対してその原動力にしようと、2008年に計画を改訂した。4つの拠点再生地区の中にさらに、Learning Quarter というブラッドフォード大学のキャンパスを中心にしたエリアを拠点再生地区と指定し、大学とその周辺の新たな環境再生を都市の重要な空間計画に位置づけたのである(図1)。



図1 ブラッドフォード市都心再生地区とブラッドフォード大学キャンパス



図2 HEFCEの計画方針とキャンパス計画の運動

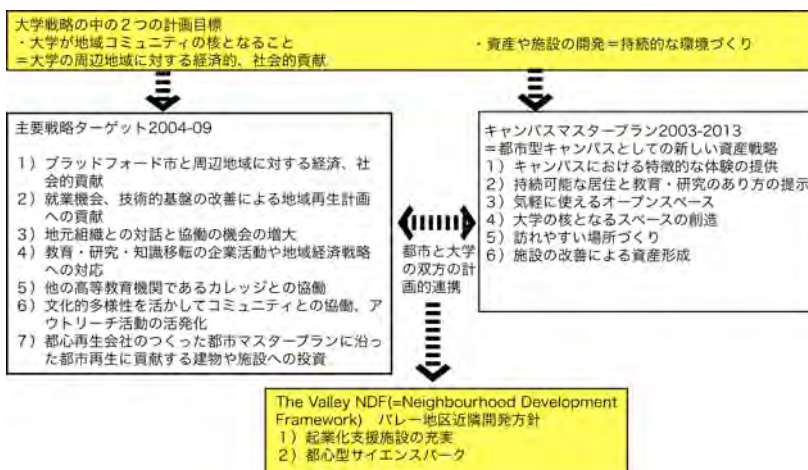


図3 大学戦略とキャンパスマスタープランの計画体系

4. 多主体と連動するブラッドフォード大学のキャンパス計画

一方で、イングランドの国立大学のキャンパス計画づくりには、特徴的な背景がある。

HEFCE (イングランド高等教育財政カウンスル)^{注4)}という組織が政府とは別に存在し、そこが、政府が示す方針に対して、具体的な高等教育戦略を各大学に提案させ、その評価によって資金配分を行うという機能を持っているのである。そのために、HEFCEの目標と大学のキャンパス計画は、強く連動している。HEFCEの5つの戦略的目標が「戦略計画2006-11」としてたてられているが、それを受けて、ブラッドフォード大学では、「大学戦略

2004-09」をつくっている。(図2)

HEFCE の5つの戦略目標の中で特徴的なものは、教育・研究の質的向上を目標に掲げるだけでなく、3) 公平な参加の可能性の拡大、4) 経済・社会に対する貢献度の向上、5) 持続的な発展といった、大学が地域社会にどのように貢献するかを求めた部分である。さらに、現在の目標では、各大学に CO2 の削減の目標を設定し、それに向けて削減を行うことを求めている。

それを受けて大学では、「大学戦略 2004-09」という大きな方針をつくり、今後の方向性を示している。その中で、7) 多様なコミュニティでの活動や教育、8) 大学が地域コミュニティの核となること、9) 財政的戦略の開発といった項目を掲げている。これは、大学が大学単体として教育・研究にのみその役割を持つという認識ではなく、地域とどのように連携しながら持続的な発展をするかを政府も大学自体も指向している現れととることができる。さらに、この「大学戦略 2004-09」の中にある計画目標が、行動計画である「主要戦略ターゲット 2004-09」と「キャンパスマスタープラン 2003-2013」にどのように展開し、さらに都市再生のマスタープランの1つに関連づけられているのかを示しているのが、図3である。

「大学戦略」には、①大学が地域コミュニティの核となること、②資産や施設の開発という2つの計画目標が存在する。主に①は、「主要戦略ターゲット 2004-09」で具体化される。1) 市や周辺地域に対する経済、社会的貢献、2) 就業機会や技術的基盤づくりを通じた地域再生計画への貢献、3) 地元社会を支える組織との協働、4) 教育・

研究・知識移転による企業活動や地域経済への対応、5) 他の高等教育機関との協働、6) コミュニティ活動、アウトリーチ活動の展開、7) 都心再生会社のつくったマスタープランに沿った都市再生に貢献するためのハードへの投資、という項目が定められている。これらは、大学の従来役割である教育・研究を大学内の活動にとどめるのではなく、いかに地域社会の再生につながるような活動に展開できるようにするかという明確な方向性を示しているといえる。

特に、現在、市が進めている都心再生のマスタープランに対しても、具体的に大学の施設の改善や、新築を通じてそれを都心再生の一つとして位置づけて行こうとする大学の発展戦略と都市戦略との相互連携の状況が具体的に示されている。

一方、②については、キャンパスマスタープランで具体化される。ブラッドフォード大学のキャンパスは、都心エリアにメインキャンパス（経営学部は、郊外に立地）があるために、キャンパスと周辺の都心域をいかに一体化して全体として魅力を高めていくことを目指して「都市型キャンパスとしての新しい資産戦略」がキャンパスマスタープランの目標として掲げられた。具体的には、1) 特徴的な体験ができるキャンパス空間の構築、2) 持続可能な居住と教育・研究のあり方の提示、3) 気軽に使えるオープンスペース、4) 大学の核となるスペースの創造、5) 訪れやすい場所づくり、6) 施設の改善による資産形成といった項目を掲げている。

これらを実現するために、キャンパス中心部に歩行者軸



を設定し、キャンパス周辺の街路と接続させ都心部と大学キャンパスを結ぶ歩行者動線を構築する計画をつくっている。(図4) この計画を実現するために、都市計画のプランナー、交通機関の関係者、大学に隣接するコミュニティカレッジの関係者、大学のキャンパスマスタープランの担当者が協働して検討を行っている。

さらに、前述の都心再生計画と連動するかたちで、キャンパス隣接地区の開発計画がつくられ、具体的なプロジェクトとして、The Green という学生寮のプロジェクトが、大学とブラッドフォード市の協働プロジェクトとして行われている。大学側の認識としては、都市再生のために学生による活動は不可欠であり、学生も含めた市民の回遊性を都心域にもたらしプロセスをつくりあげていくことが大学の役割の一つであるとしている。

5. エコバーシティ (Ecoversity) : サステナブルキャンパス実現に向けた大学の取組

ブラッドフォード大学のキャンパス計画は、上記のような物的環境に関する計画だけではなく、大学の活動を総合的に捉え、今後の目標としてサステナブルキャンパスを実現するための計画を構築している。この計画は、「エ

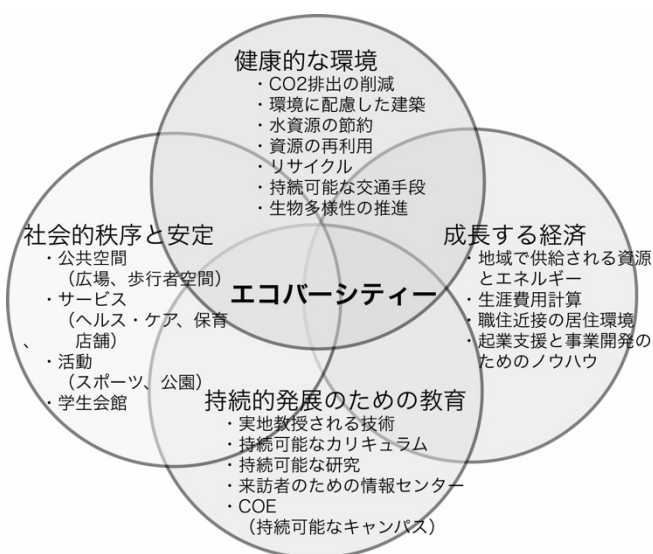


図5 エコバーシティの概念

Ecoversity Time line 2004-2014



図6 エコバーシティのタイムライン

コバーシティ 2003-2013」というものであるが、HEFCEが求めている持続的発展を目指した計画づくりに対応している。エコバーシティというモデルは、環境、経済、社会、教育の4つの要素を関連づけることによって達成されるもので、都市・地域再生の理念にもつながるコンセプトなのである。

環境の要素は、①二酸化炭素の削減、②建物の省エネ対策、③雨水利用の促進による水節約、④資源のリサイクル化推進、⑤自動車交通量の削減を含めた持続的交通計画、⑥生物多様性の向上といった項目による環境マネジメントを行うことが位置付けられている。

経済の要素は、①資源やエネルギーの地域内での調達率を高める(30%)、②生涯資金の計算と供給、③生活し働くための居住施設の整備、④インキュベーターや起業のための施設の拡充、⑤都市再生の支援といった項目である。

社会の要素は、①パブリックスペースの充実(広場や歩行者優先の空間)、②社会サービスの充実(ヘルス・ケア、保育園など子育て支援、店舗)、③地域活動を支えるスペース(スポーツ施設、安全な公園)、④学生会館、⑤家族用居住施設、⑥市民参加の促進のためのセンターの建設といった項目である。

教育の要素は、①持続的発展に寄与する技術を具体的に示す、②持続的発展に関するカリキュラムを整備する、③持続的発展に関する研究の展開、④外部からの訪問者のための持続的発展に関する資料等を集積させたセンターの構築、⑤持続可能な発展を目指すキャンパスとして中心的な存在となることといった項目である。

このようにエコバーシティ計画では、環境、経済、社会といった要素の再生と大学の教育を関連させながら持続的発展のモデルを示そうとすることが、この計画の目標である。それぞれの実施項目と大学の環境整備全体を関係づけていき、キャンパス全体のサステナビリティを高めていく方向性を目指して実践されている。図6は、エコバーシティのタイムラインを示しているが、2010年の筆者らが行った調査の段階では、Phase1,2の段階の初動期から、Phase3の全学的な展開レベルに移行していた。その段階になって行ったことは、既存の建物の改修を通じて、外部空間を内部化し、学生や来訪者の交流のためのパブリックスペースを整備すること、また学内の歩行環境を改善し、大学内と周辺地域とのアクセス改善などの環境整備と新しい学生寮の整備である。

さらに、環境負荷低減のプロジェクト、環境や持続可能性といった内容のカリキュラムの整備、学生のエコバーシティ活動への参加を促し、キャンパスのサステナビリティを高める活動を展開している。カリキュラムにおいては、ユネスコが推進するESD(Education of Sustainable Development)に合致するカリキュラムの開発を行い、教育だけでなく、研究面でも大学の方針としてエコバーシティを大きく位置づけている。その他、大学が都市と連携した整備も特筆するべきものがある。

6. ブラッドフォード市の都市再生計画における大学キャンパスの役割

エコバーシティを含めたブラッドフォード大学のキャンパス計画は、ブラッドフォード市の都心再生計画を実現するための重要な計画であると位置づけられる。それぞれの計画は、計画相互に連携するような組み立てになっており、行政側の都心再生計画では、まず、ブラッドフォード大学、ブラッドフォードカレッジなど高等教育機関が立地する地区を Learning Quarter として位置づけ、様々な再開発プロジェクトをブラッドフォード大学、ブラッドフォードカレッジ、民間ディベロッパー、ブラッドフォード市、BCR がプロジェクトチームを組んで実施する。大学キャンパスだけでなく、その周辺の市街地に対しても大学と協働を行っていく仕組みで、行政は、大学が主要な核となった周辺再開発プロジェクトであると位置づけているのである。

そのような行政側の位置づけの上で、The Green という学生寮のプロジェクトは、行政としては、Learning Quarter の具体的プロジェクトとして、大学としては、エコバーシティ計画の具体的なプロジェクトとして、大学と地域が相互に連携できるモデルとして位置づけられている。The Green は、エコバーシティを実現するためのよいモデルで、入居する学生に普段の生活の中で、省エネ、環境配慮などの活動を実践させるモニターの装備と棟ごとの居住者コミュニティをつくっており、相互に競争意識を創りだしている。

The Green のプロジェクトは、底地は、ブラッドフォード市が無償提供した部分と大学の所有地の2つの種類の土地を使ったプロジェクトである。市の所有地は、貸与期限が20年となっているが、その期限をすぎても大学教育関連の施設しか立地できないという土地利用上の制限をかけている。一方、全体の建設費については、Mi7 というディベロッパーが提供している。このように大学、基礎自治体、民間ディベロッパーという3者（資金調達には、地域開発公社（ヨークシャー・フォワードも参加）が連携して行われたプロジェクトである。



写真1 The Green

The Green は 2011 年の秋に完成した。このプロジェクトは、大学がブラッドフォード市に対して提案して、実現したが、都市側もこのプロジェクトを積極的に評価している。

7. キャンパスと周辺地区のサステナビリティを高める仕組み

サステナブルキャンパスの構築を目指す時、いつも議論になるのは、大学キャンパスだけのサステナビリティを高めればよいのかという問題である。ブラッドフォード大学の場合は、大学と都市相互の計画を連動させることによって、キャンパスと周辺市街地総体での目標の実現を目指している。

具体的な連携の仕組みをみると、ブラッドフォード大学の不動産施設部とブラッドフォード市の都心再生部との間の関係がとても強い。大学は、市に提案できるプロジェクトを構築するとともにプロジェクトを推進する資金を調達し、また、市は、計画許認可だけでなく、土地の斡旋、立ち退き交渉、予算確保などを行うといったかたちで、相互の役割を明確化し、その相互協力の中でプロジェクトを推進している。

なぜ2つの組織が連携することになったのか。ブラッドフォード市は、中心市街地に人を呼び戻して活気を創りだしたい、そのために、大学、都心広場、商業地域の間の人々の行き来を増やしたい。大学は、学生寮を充実させること、サステナビリティの実現に積極的であることをアピールすること、都市が魅力的になるという3つのことが、直接大学の評判につながるという大学の戦略をつくり、それによって、入学生数を増やしたい。この両者からの利害が一致して、2つの組織の計画的連携によるコンソーシアムが出来上がった。

さらに大学は、学生寮などの施設整備をするだけでなく、エコバーシティというソフトプログラムを展開し、サステナビリティに対する学生の意識向上と大学が率先してモデルになることによる、都市への波及効果を狙って、エコ

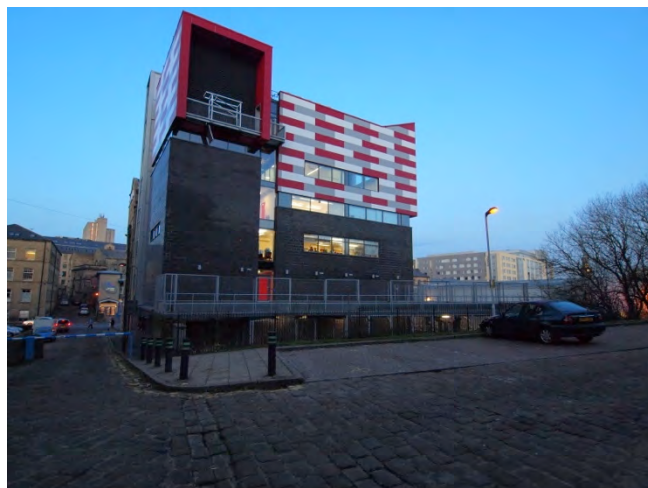


写真2 Learning Quarter

表1 Estates Strategy 2004-2014 の目標

内容
1 一般教育施設の継続的改善
2 学術活動センターの教育方針に貢献する一連の施設を計画する
3 質が高く、持続可能な学生居住施設を提供する
4 大学周辺地区改善の再評価に関するブラッドフォード市都市計画審議会やディベロッパーとの継続的対話を行う
5 学生のレクリエーション、正規またはインフォーマルな学習スペース、市民利用も含めた会議スペースの改善
6 学部や一般的部分における教職員のためのレクリエーション、会議スペースの改善
7 運動、レクリエーション施設の拡張
8 老朽建物の継続的改善
9 廊下やトイレなどの共用部分の改善
10 サインの改善
11 CO2削減などのサステイナブル活動の展開
12 キャンパスの建築面積の削減によってCO2と経費のさらなる削減
13 キャンパスの緑化と歩行者優先の動線計画の積極的な推進
14 キャンパスを通過する安全な動線の開発
15 アスベストなど法的に禁止されている素材の除去
16 キャンパスの環境的な改善の継続
17 修繕計画の留保と長期的な実行

パーシティブプログラムを全学的に展開している。この中心になって動かしているのも、不動産施設部とエコパーシティブの運営委員会である。

また、Mi7 という民間のディベロッパーが大学、市相互の間でプロジェクトの調整の役割を果たしている。Mi7 は、ヨークシャーフォワードなど地域開発公社などからの資金調達がしやすいような提案も行い、コンサルタント的な役割もしている。

このような組織と役割分担、戦略的計画づくりによって、大学は、施設環境整備の目標を達成でき、一方で、行政は、都心再生計画において他の地域よりいち早く具体的なプロジェクトが実現している。大学のプロジェクトを都市計画として位置づけ、双方の目標を同時に達成させる、そのためには、資金を出し合い、計画推進のための許認可などの支援を行うなど都市と大学が綿密に連携する体制が構築されているのである。

8. 大学と行政の連携活動の継続性

大学がその周辺地域の再生に興味を持ち、また都市は、自らの再生計画を実現するために、相互で連携しあい、協力することに関しては、6、7章で述べたように相互のニーズの合致があることが大きい。しかし、それを裏打ちしているのは、相互の計画的な連動である。

表1は、現在のブラッドフォード大学の施設整備戦略、Estates Strategy 2004-2014 の中にあるにおける主要目標である。これは、キャンパスマスタープランのアクションプランと位置づけられる。この中を見てみると、大学の経営方針に従って、施設の改善や新築計画、キャンパスの環境整備計画、CO2 削減などの環境配慮計画など、キャンパス内の環境整備に関する項目など、一般のキャンパス計画と変わらない項目も多く見られる。しかし、4章で述べた、「大学戦略2004-2009」とその実現のために立案された「キャンパスマスタープラン 2003-2013」の中

表2 Valley NDF の戦略テーマと内容

戦略テーマ	内容	期間	財源	責任主体	協働主体
都市居住	1. ゴーイットサイド・アーバンビレッジ：サンブリッジ・ロードの北側につくられる居住地区	1-10	ディベロッパー	ブラッドフォード都心再生会社	ブラッドフォード・公共住宅・トラスト／ディベロッパー
	2. リスターゲート：ガスワークス地区にできるランドマーク的な住宅地区	2-10	ディベロッパー	ブラッドフォード都心再生会社	ディベロッパー／大学／ブラッドフォード市
	3. ウェストホーム・ストリート：水路沿いの住宅開発。コンベンションと新築を含む	1-3	ディベロッパー	ブラッドフォード都心再生会社	ディベロッパー／大学／ブラッドフォード市
	4. ウ・アレー・コート：スロントン・ロード沿いのランドスケープを配慮した一連の住宅群	5-10	ディベロッパー	ブラッドフォード都心再生会社	ディベロッパー
創造と情報	5. ジ・アーク：サンブリッジ・ロードに創造的・芸術的空間を設ける	2-4	ブラッドフォード都心再生会社／ディベロッパー	ブラッドフォード都心再生会社	芸術関連団体
	6. ナレッジ地区：知識・情報企業の起業化のための最初の建物群	3-5	ブラッドフォード都心再生会社／大学	ブラッドフォード都心再生会社	大学
	7. フォーマー・アレキサンドラ・ホテル：ブラッドフォード・カレッジのための新しい建物	2-4	カレッジ	カレッジ	ブラッドフォード都心再生会社／ブラッドフォード市
	8. ブラッドフォード・サイエンスパーク：以前のガス工場の西側部分にできる都心型サイエンス・パーク	4-10	大学／ディベロッパー	ブラッドフォード都心再生会社	ディベロッパー／大学／ブラッドフォード市
生活の舞台となるランドスケープ	9. ベックサイド・パーク：ベックに沿った緑地の公園づくり	2-10	ブラッドフォード都心再生会社／ディベロッパー	ブラッドフォード都心再生会社	ブラッドフォード市／ディベロッパー
	10. オーチャード・スクエア：スロントン・ロードの西端にできる新しいゲートウェイとなる広場	1-3	ブラッドフォード都心再生会社／ディベロッパー	ブラッドフォード都心再生会社	ブラッドフォード市
	11. ゴーイットサイド・コート：ゴーイットに沿った一連の親近感のある中庭	2-5	ブラッドフォード都心再生会社／ディベロッパー	ブラッドフォード都心再生会社	ブラッドフォード市
	12. アーバンビレッジ・グリーン：アーバンビレッジの中心部にできる新しい公共空間	3-5	ブラッドフォード都心再生会社／ディベロッパー	ブラッドフォード都心再生会社	ブラッドフォード市
質の高い街路空間	13. スロントン・ロード・ブルバール：魅力的な街路樹のある広幅員道路	3-6	ブラッドフォード市／ディベロッパー	ブラッドフォード市	高速道路庁
	14. バラダイス・ストリート：ダウンタウン・ロードからスロントン・ロードにかけてつくられる新しい道路	3-7	ブラッドフォード市／ディベロッパー	ブラッドフォード市	高速道路庁
	15. サンブリッジ・ロード：サンブリッジ・ロードに沿った公共空間領域の改善	1-3	ブラッドフォード都心再生会社	ブラッドフォード都心再生会社	ブラッドフォード市
	16. クロス・ウ・アレー・ルート：南北の道路の環境配慮型の改善	2-5	ブラッドフォード都心再生会社	ブラッドフォード都心再生会社	ブラッドフォード市

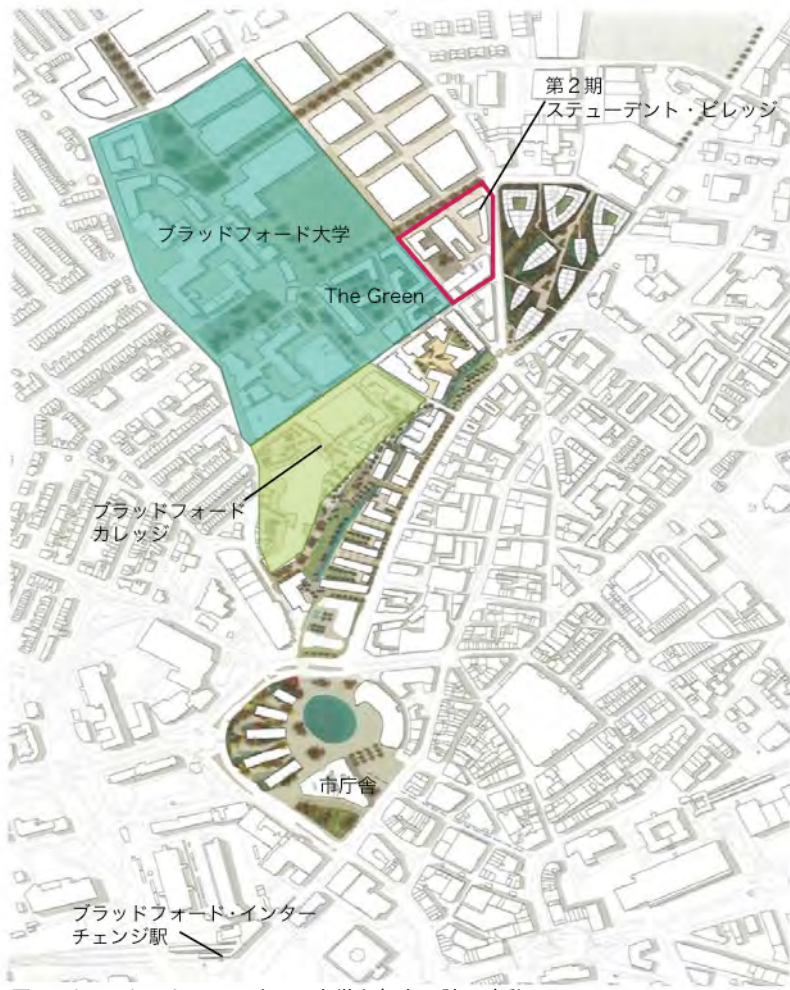


図7 Learning Quarter 地区の大学と都市の計画連動

に記述されている都市再生への貢献ということが、具体的な目標として大学周辺地区の改善に向けた継続的対話を市当局とディベロッパーと行うことが明記されている。これが、学生寮計画 The Green として実現化したもののなのである。この間、大学側では、学生寮拡充という目標はあったものの、財源の確保などの問題から、その規模を検討し、前述のように大学資金で建設する部分と民間資金を導入して建設する部分という2つの供給方式を併用するプロジェクトスキームを開発して、実現化しているのである。

また、表2は、大学周辺地区の地区再生整備計画の目標と、その内容、実施主体、財源などを示したものである。この計画は2005年にブラッドフォード市と都市再生会社为主体となって策定したものである。この網かけ部分が大学が協働して行う事業を示している。The Green の計画は、この表では、2. リスターゲートの都市居住計画を具体化したプロジェクトの一つという位置づけになる。この段階ですでに、大学と行政、民間が協働する事業推進体制が明記されているのである。

さらに、今年(2012年)になってからは、The Green の北側の街区の再生計画が、第2期ステューデント・ビレッジとして具体化に向けて動き出している(図7)。2005年当時は、The Valley 地区として都心再生計画の1地区として位置づけられていた大学周辺地区は、2011年に Learning Quarter として、周辺教育機関の敷地も含めて位置づけが強化された。そして、図7に示すように計画図の中に、実現化したプロジェクトも位置づけられ、初期の地区整備計画のコンセプトを維持しながら、着実に都心再生計画の実現化が動き出している。大学は都心再生計画の重要なステークホルダーであり、かつ、計画推進の中心的役割を果たすまでになってきている。

このように2005年における計画策定から、社会・経済的变化が起こる中で、具体的プロジェクトを模索して実現するためには、計画的な連動と継続的な対話、さらには、プロジェクトの実現スキームの工夫などを絶え間なく繰り返して行っていることによって、計画の実質的な推進が図られているのである。

9. 地方都市再生における大学キャンパス計画の役割

ブラッドフォード市の中心市街地再生計画は、イングランド政府、ブラッドフォード市、都市再生会社、HEFCE、大学、地域開発公社、民間ディベロッパーなどの多様な主体が連携しながら再生計画を立案し、これまでにない新たな具体案を作成して課題解決にあたっていることが見て取れる。ブラッドフォード大学では、エコバーシティという大学全体を巻き込んだサステナブルキャンパス実現への取組は、様々な分野の教育研究成果の向上にも役立っていることはもちろんであるが、地域再生の鍵となる新たな整備手法による学生寮の建設という多主体が連携したプロジェクトを実現させる原動力にもなっている。まさに、大学が Center of Community を実践している好例である。

大学の機能再構築をめざす我が国においても、大学が地域再生の核となっていくためには、自治体、NPO、民間企業など、多様な主体との連携無しには実現が難しいことを肝に銘じておくべきだろう。大学キャンパスの計画にあたって、つねに地域との連携を意識しながら考えていくことが重要なのである。

連載の次回は、キャンパス周辺の居住環境改善の取り組み大学教員や市民の活動を発端として、自治体の協力を得ながら大学主導の地域再生計画を展開しているペンシルバニア大学とフィラデルフィア市の事例を取り上げる予定である。

<註>

※1: 本原稿は、2006年、2010年、2012年に科学研究費補助金によってブラッドフォード大学、都市再生会社、ブラッドフォード市の各担当者へのヒアリングと資料収集を行ったものを基礎とし、それらに最近の情報を付加して作成されている。

※2: 1998年に旧交通自治省は、イングランドの都市衰退の原因を特定し、都市に人々を呼び戻す実際の解決方法を推奨するために、アーバン・タスク・フォースを設置した。アーバン・タスク・フォースは、報告書の中で、新たな都市再生策として、市町村自らが都市再生を牽引するために「都市再生会社の設立を提言し、政府は1999年にリバプール、マンチェスター、シェフィールドに都市再生会社を設立した。BCRは、2003年設立。

※3: 中央政府系の機関で、都市再生、特にブラウンフィールドの再生を目的に自治体と共同して土地取得、基盤整備等を行い、様々な支援策を用意して民間投資を呼び込む役割を果たす。

※4: <http://www.hefce.ac.uk>

<写真・図版出典>

図1, Bradford Centre Regeneration Master Plan に筆者加筆

図2, 3, 5, 筆者作成

図4, Estates strategy 2004/2014 に筆者加筆

図6, Eco versity 2004-2014

図7, Estates Strategy 2004/2014 に筆者加筆

写真1, 2 筆者撮影

表1, 2 筆者作成

<参考文献>

- 1) 小篠隆生、小松尚：大学と都市相互の計画連携（ブラッドフォード大学・市の場合）イギリスの大学戦略と地域再生に関する研究その2、日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1（選抜梗概）、pp.287-290、2007
- 2) 小篠隆生：都市再生プロジェクトにおける大学の新たな役割、地域と大学の共創まちづくり（小林英嗣＋地域・大学まちづくり研究会編）、pp.106-110、学芸出版社、2008
- 3) The University of Bradford ; Corporate Strategy 2004-2009
- 4) The University Bradford ; Main Campus Strategies, 2005.01
- 5) Bradford Centre Regeneration : Bradford Centre Regeneration Master Plan, 2003
- 6) Bradford Center Regeneration ; Valley Neighborhood Development Framework, 2005
- 7) City of Bradford Metropolitan District Council ; Bradford City Center Area Action Plan, 2007.08
- 8) City of Bradford Metropolitan District Council ; Learning Quarter, 2011.11
- 9) The University of Bradford : Estates strategy 2004/2014 Revision December 2009
- 10) 「地域・環境再生に向けた共創の実現と仕組みに関する国際的連携研究」研究代表者：小林英嗣、平成 21～23 年度科学研究費補助金基盤研究 (B) [課題番号 21360285] 報告書